

多気町教育委員会

＜所在地＞

〒519-2182 多気郡多気町相可 1587 番地 1
TEL 0598-38-1121

I 事業のねらい

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちを取り巻く課題の解決や、子どもたちの豊かな成長の支援ができるような「地域とともにある学校づくり」を目指す。多気町では、今年度は、町内すべての小中学校で校区コミュニティ・スクール（以下「CS」と表記）の導入を行った。CSを導入し、地域とともにある学校づくりを行うことが目標である。

II 具体的な取組例

1 運営協議会の設置

勢和中学校区及び町内の全小中学校5校において運営協議会を設置した。一例として、小学校と中学校が連携して活動している勢和中学校区での取組は次のとおりである。

（1）勢和中学校区の取組

ア 令和5年度校区CS基本計画の策定

校区CS基本理念をもとに、本年度の校区CS基本計画を策定した。基本計画では、基本理念に則り学校組織運営を行っていくために、校区運営協議会の充実を図るよう、地域学校協働活動推進員（以下「推進員」と表記）を中心とした学校運営協議会委員（以下「委員」と表記）をその事務局として位置付けた。さらに、地域学校協働本部に学校・地域行事部、ふるさと学習部、生活環境部、学習指導部の3部会を組織し、「地域とともにある学校づくり」を推進することとした。

イ 勢和中学校区運営協議会の設置

・委員構成

勢和中学校区運営協議会委員は、教育委員会が「学校運営協議会の設置管理に関する規則（平成27年4月1日施行）」に基づき任命した。

・年間活動計画

回	日時	協議内容
第1回	5月19日 19:00～ 20:30	校区CS基本計画及び学校教育経営計画 年間計画の検討 防災委員会の設置
第2回	9月29日 16:00～ 16:50	経過報告 意見交流「勢和地域文化祭（10/29開催）」
教育委員会 への中間報 告会	11月1日 10:00～	経過報告
第3回 (予定)	3月15日 19:00～ 21:00	学校の自己評価をもとにした学校関係者評価

・学校関係者評価

学校は、学校教育経営計画及びマネジメントシートに基づき教育活動を展開し、自己評価として目指す学校像の実現に向けたPDCAサイクルによる達成度の評価、学校組織の強みと弱みを明らかにするアセスメントを行う。勢和中学校区運営協議会は、年間を通じて学校を見聞し、これらの資料をもとに、学校関係者評価を行い、学校に対して改善提案を行う。このことにより、学校評価に、より客観性をもたせ、継続的な改善の中で、学校教育活動を充実したものにする。

ウ 地域学校協働本部の設置

・推進員の役割

推進員は、勢和中学校区運営協議会事務局として位置付けるとともに、地域と連携した取組について学校と地域のパイプ役として各種事前調整を図ること等を主な役割とした。

・勢和中学校区運営協議会との連動

持続可能な取組へとつなげるため、地域学校協働本部、部会に教職員を配置したとともに、勢和中学校区運営協議会委員も所属し、

勢和中学校区運営協議会と連動させた。

また、運営協議会は、昨年までは年4回開催していたが、年3回の開催とした。

エ 企画会議の実施

年3回、推進員、校長、教頭、校区CS担当、各部小中担当による校区CS合同企画会議を年3回開催し、勢和中学校区運営協議会が有効的に機能するよう調整をしたり、校区CSの取組に関わる進捗状況を共有したり、小中連携教育の進捗状況を確認した。また、中学校・小学校それぞれにおいても年9回の企画会議を開催した。

2 「地域学校協働活動」の実施・運営について

（1） 勢和中学校区の取組

中学校区では、「勢和とかかわる」、「勢和を見つける」、「勢和へ働きかける」の3つの柱を掲げ、小学1年から4年は、「勢和と体験し、勢和に触れる」を、小学5年から中学1年は、「勢和で繋がり、自らが考え行動する」を、中学2、3年は、「勢和で探求し、発信する」を大題として、それぞれの活動を行った。

ア 小中学校が連携した取組

あじさいの花が咲き終わるころ、小学校5、6年生と中学1年生があじさいの挿し木を実施した。推進員が中心となり、地域の方を講師に招き、小学生と中学生が協力しながら活動し、小中学校の繋がりを深めた。

秋には、それぞれの学校の卒業式、入学式の会場を菜の花でいっぱいにするを願って、小中学校協働で種まきを行った。地域の方からお借りしたトラクターで推進員が耕した畑に、小学生が種をまき、中学生が土かけを行った。小学校、中学校、地域が一体となったこの取組はそれぞれの関わりを深めた。

イ 小学校での取組

低学年は「勢和を感じる」をテーマに勢和小学校と地域の交流畑で大豆の種まき、収穫、大豆選別、豆腐づくり、味噌づくりを行った。

中学年は「勢和を学ぶ」をテーマに、大豆

栽培を中心に教科の学習を実生活・実体験と統合していった。

高学年は、「勢和と繋がる」（5年）、「勢和で生きる」（6年）をテーマに、米づくり体験を中心とした学習や勢和地域で生きてきたことへの感謝の気持ち、命をいただくことの大切さを学ぶ機会としてきた。

5年生は、1年間を通して米作りを体験することができた。ボランティアの方を中心に、苗づくりから、田植え、稲刈り、脱穀、とうみまで行うことができた。

6年生は、6年間の集大成として、これまで自分たちが育ててきた、お米、大豆を使ったメニューを考え、学年末に定食を作る予定である。

ウ 中学校での取組

1年生では、「勢和で動く」をテーマに、小学校と協働した活動のほか、いちごやさつま芋の収穫などの農業体験を中心に活動してきた。また、休耕田の活用を考え、実際に休耕田を借りて小麦づくりに取り組んでおり、今後どのように取り組んでいくのかを自分たちで考え、実践していく予定である。

2年生は、「勢和で深める」をテーマに、地域の17事業所の協力のもと、職場体験を通じ、地域の企業や施設の職員から働き方や目的、生き方を学んだ。

3年生では、「勢和を広める」をテーマに、これまで取り組んできた子こと、学んできたことを発信した。修学旅行先の東京では、地域にゆかりのある人物について「殊法および三井高利の足跡と伊勢商人」をテーマにした講演を聞き、学校生活では知ることができない内容に触れ、感銘を受けた。

それぞれの活動の成果は、地域の文化祭等で地域に発信した。

エ 保育園、小学校、中学校と連携した取組

校区の保育園と小学校、中学校で「Family Week」を年3回設定し、同じ期間に実施した。これは、テレビやスマホを利用していた時間

を止め、家族とともに過ごす時間に充てることで家族とのコミュニケーションを増やす機会を作ることを目的に行なわれた事業で、多くの生徒において、家の手伝いをするなど普段よりも家族と過ごす時間が増えた。

Ⅲ 取組の検証

1 学校教育活動への支援について

（１）成果

勢和中学校区については、各校が今まで取り組んできた活動をベースとして今年度も地域の協働のもと校区 CS を進めることができた。保護者・地域の方たちの学校教育活動への思いも強く、校区 CS の取組にも非常に協力的であった。

相可小学校、佐奈小学校においては、導入２年目となり、昨年度よりもより充実した活動を実践することができた。また、今年度新たに CS を導入した津田小学校、外城田小学校、多気中学校においても、先進校の事例を参考にしつつ、地域で活躍する人の存在を身近に感じることができる体験は、子どもたちが自分の住んでいる地域を見直すよい機会となり、これまで続けてきた地域学習を更に深めることができた。

（２）課題

勢和中学校区では、昨年度は小学校と中学校との間に校区 CS に対する考えや認識に差があったため、地域の方との連携が上手くいかないこともあったが、今年度は、解消に向かった。

他の学校においても地域サポーターの要請の仕方についての検討や、職員全体で CS 活動への理解を深めることも課題として挙げられた。また、地域講師やボランティアの方の高齢化による新しい人材の確保、職員の地域行事への関わり方も課題となった。

2 学校・地域の連携について

（１）成果

勢和中学校区では、今年度は、昨年度よりも地域のボランティアやふるさと学習（生活科、総合的な学習時間）を通して地域の方々と連携・協働しながら進めることができた。

他の学校においても、学校運営協議会の設立により、教育課題について相談することができ、学校現場とは違った側面で今までにはなかった意見をいただき参考にすることができた。

（２）課題

すべての学校において、職員が地域の方々とのつながりをもう一度見直す必要があり、地域の方々と連携するだけでなく、協働を意識して活動を進めていくことが課題である。また、どの学校においても、地域との連携を維持するための人材の確保は課題である。

Ⅳ 次年度の方針

今年度からすべての学校で CS を導入し、各校の活動内容を共有できた。次年度は、他校の事例を参考にしながら、今年度の活動内容を精査し、さらに充実させるために、「地域とともにある学校づくり」を目指して取り組んでいく。